

はじめに

大正6年(1917年)9月の私立川崎商船学校キャンパスから仰ぎ見た六甲山稜線と平成26年(2014年)3月の深江キャンパスから望んだ六甲山稜線は、100年の時を経ても同じ佇まいである。一方、六甲山から眺望した「茅渚の海」の海岸線は100年間で大きく変貌を遂げた。この間の人間の営みが、陸を海へと押し出し、世界でも類を見ない広大な人工島が大阪湾に数多く建設された。

それらの狭間にある深江キャンパスは、大阪湾の変貌と同様に大きく胎動し、躍進してきた。教育分野では、国策による船舶職員養成から海事社会を支える有為な人材の育成並びに高度職業人として船舶職員養成へと大きく前進し、育成した人材は、海事社会を中心に国内から海外へとその活躍の場を確実に拡大させている。また、研究分野においては、大学院前期課程及び後期課程の充実に伴い、着実に研究の質と量が向上し、邦文論文から英語論文へと投稿学会及び掲載学会誌の海外シフトが進行している。

平成25年(2013年)10月、海事科学部は創立10周年を迎えた。平成15年(2003年)の大学統合、平成16年(2004年)4月からの法人化、平成19年(2007年)4月の大学院海事科学研究科の発足と深江キャンパスは大きな変革を経験した。さらに、平成19年(2007年)の海洋基本法の施行、また同法の規定を具体化した第2回目の海洋基本計画が平成25年(2013年)4月に閣議決定され、海事科学研究科・学部は激しい変化の波を受けつつある。

本報告書の目的は、第2期中期計画期間(平成22年度～27年度)の平成25年度に行った諸活動の自己点検及び自己評価を行い、当該中期計画期間の終盤(平成26年度～27年度)にすべき活動の具体的目標を明確にすることである。

第一編では、この平成25年度において多くの時間を費やしてまとめた海事科学部、海事科学研究科の「ミッション再定義」の内容を記述する。

第二編では、第2期中期計画のうち平成25年度に関わる年次計画を39項目にまとめ、各々の項目について、目標と対応状況及び自己評価を記載した。

第三編では、平成25年度の年次計画39項目の自己評価に用いた根拠データを含めた活動内容、即ち、学部における教育活動、大学院における教育活動、研究活動、国際交流活動、社会連携、高大連携活動の詳細及び諸活動を実践する上での各種委員会の活動と附属センターの活動をまとめた。

第四編では、乗船実習科及び深江丸に関する神戸大学監事の監査報告書を掲載する。この監査は、海事科学研究科・海事科学部が実施している「教育の質」向上を図るための具体的な教育プログラム等や施策の中から「練習船深江丸を用いた教育プログラム」及び乗船実習科の「航海訓練所実習プログラム」に関する現状と課題確認したものである。

第五編では，平 25 年度のトピックスである資質基準システム運用マニュアルの第 1 版と練習船深江丸教育関係共同利用拠点化申請書（抜粋）を掲載する。